その本はそこに　　読書案内 33　　～ 前向きに転がる舞台小説 ～

評伝　獅子文六

牧村健一郎　（ちくま文庫 2019. 12. 10）　❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖

■獅子文六さんの評伝です。（四×四＝文六、文豪ではないとのこと）
（本名は岩田豊雄、横浜生れ、小説家、劇作家、演出家として活動）
フランスで演劇理論を学び日本にて文学座を結成しました。庶民生活の日常をとらえ、ウィットとユーモアに富んだ小説は人気を博して昭和を代表する作家となり、「娘と私」は NHK 連続テレビ小説の第 1 作目となりました。獅子文六さんの小説は、過去に 10 本以上映画化されています。

■近年、再ブーム到来で、ちくま文庫等から続々復刻される文六作品。
第 1 作「コーヒーと恋愛」（H25 刊行）はこの 6 年で 20 刷り 8 万部強で、NHK テレビで「悦ちゃん」がドラマ化され、ユースケ・サンタマリアさんが主演され、好評でした。新聞小説で人気が出たこともあり、展開のテンポが良くて、読んでいて楽しい小説ばかりです。
ちなみにゴールデンウィーク（和製英語）は文六さんの発明した言葉。

❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖